

日 時：令和7年10月6日(月) 14:30～16:20

場 所：八戸工業大学 2号館3階大会議室

出席者：39名（資料3参照）

次 第：1. 開会

(1) 挨拶

HIT カーボンニュートラル人材育成協議会 会長

八戸工業大学 学長 船崎 健一

2. 講演

演題「青森県の脱炭素施策—地域 GX でもっと豊かに、暮らしやすく—」

青森県 環境エネルギー部 エネルギー・脱炭素政策課 地域脱炭素推進グループ 泉 陽子 氏

3. 議事

(1) 委員の交代について

(2) 環境学習会の実施状況と今後の予定について

八戸市 市民環境部 環境政策課 環境政策推進グループ 盛田 芽生 氏

(3) 小中高一般向け WG の改名

八戸工業大学 社会連携・研究推進部 推進監 工学部工学科 教授 折田 久幸

(4) 高大連携出前講義の地域拡大

六ヶ所げんねん企画株式会社 サイクル広報事業部 ディレクター 山田 立哉 氏

(5) 高大連携 CN 教育の課題とその解決策

八戸工業大学 工学部工学科 教授 信山 克義

(6) 質疑、意見交換

4. その他

(1) 次回協議会開催について

5. 閉会

会議記録

1. 開会

(1) 挨拶

現在、分野への関心は高まっており、それに伴って地域間競争も激しくなっているのを感じる。八戸市として、この地域をカーボンニュートラルの拠点の一つにしていく必要があるのではないか。本協議会では、地区内の方向性をもって議論を深めていければと考えている。これらは、2050年に向けての日本全体の大きな取り組みの中にあり、非常に重要な位置づけである。大人がその意義を子どもたちにしっかりと伝えていくと同時に、この地域に産業の基盤を作ることは、地元への人材定着を促すものになる。本協議会を中心に議論を進めていきたい。

2. 講演

演題「青森県の脱炭素施策—地域 GX でもっと豊かに、暮らしやすく—」

青森県基本計画に基づき、「若者が未来を自由に描き実現できる社会」に向け7つの政策を推進している。環境面においては、自然環境との調和とその活用をテーマに、脱炭素やエネルギー、産業振興、環境保全などに取り組んでいる。青森県地球温暖化対策推進計画により、温室効果ガス削減と再生可能エネルギー

導入の目標を定め、前者においては、現時点で削減の方向で推移している。本県の脱炭素政策は、地域づくり、暮らし、産業の3つの柱に各事業を整理する形で進めている。地域づくりにおいては、県内市町村の取り組みを促進するべく、支援チームの設置やセミナー開催などを行っている。暮らしにおいては、高断熱・高気密住宅の普及や、住宅向け太陽光発電設備の導入を促進している。産業においては、GXしごとづくり推進プロジェクトの実施や、県内企業に対する状況調査を通じた支援を行っている。2050年カーボンニュートラル実現は、世界的に取り組む課題である。環境のみならず経済にも関わる分野であることを意識しながら、県一体となって進めていきたい。

講演における質疑応答

- ・GX 青森しごとづくり推進プロジェクトについて、他地域でも同様の取り組みが推進されているが、青森県の目指すところは？
→人材の地元定着、雇用にどう繋げるかが課題である。自治体との関係性作りや、地場業者に経済効果が出るよう力を入れていきたい。
- ・スライドで提示された温室効果ガスの削減目標に、火力発電所から排出される二酸化炭素量は含まれていないという認識で良いか？
→その認識で問題ない。

3. 議事

(1) 委員の交代について

船崎学長の就任に伴い、本協議会会長も交代となった。副会長は会長の指名する委員をもって充てると会則で定めており、青森県工業会の桃井氏が継続する。協議会発足当初より、オブザーバーとして八戸市の3部署に参画いただいていたが、今回新たに「次世代エネルギー導入推進室」としても参画いただくこととなった。

(2) 環境学習会の実施状況と今後の予定について

令和7年度は、環境学習会の学習内容の見直しと中学生向け講座の新設、カーボンニュートラルに特化したイベントの開催を目標としていた。小学生向け地球温暖化対策講座は座学だけでなく実験を取り入れるなどブラッシュアップを図った。中学生向けには、カーボンニュートラル講座、エネルギー講座、エコツアーを新たに設けたが、現時点では申し込みがない。本協議会から派生した小中高一般向けWGから提供があった講座リストを作成・送付しており、今後は中学校に個別に案内することも検討している。小学生向け環境学習会は毎年一定の開催規模を確保できており、これを中学生向けにも応用させ、定番化を図りたい。イベント開催は実現に至っていないものの、八戸市が主催する他のイベントとの兼ね合いを考慮し、開催方法等を協議していく予定である。カーボンニュートラルの達成、それを担う人材の育成と若者の地元定着のきっかけ作り、そして八戸市の環境教育の充実を目指し、引き続き協力をお願いしたい。

(3) 小中高一般向けWGの改名

本協議会から派生した、小中高一般向けWGを「カーボンニュートラルサーキュラーエコノミーラリー(CNCER)」に名称変更した。打ったら打ち返す、ラリーを続けるというイメージで、持続可能なものを目指す意味を込めている。サーキュラーエコノミーにおいて、自然浄化ゾーンをロジック化すること、制御化する取り組みが始まっている。小中学校の理科、社会科で習う分野を融合させた教育を展開することで、子どもたちの成長が見込めるのではないか。これらを検討する現在のWGの活動を全国的な学会で共有したり、外部から情報収集したりと、活動の幅を広げていきたい。

(4) 高大連携出前講義の地域拡大

例年日本原燃グループとして、小中高、高等教育機関向けに出前講義を行っている。放射線やエネルギーなどさまざまなメニューを組み合わせ、連携する学校と考えていくことになる。青森山田高校との連携は、系列の青森大学の紹介から始まり、八戸工業大学の見学も組み込むことになった。工学系を知る機会が少ないであろうことから、高校側にもメリットがあると思われる。見学に留まらず、カーボンニュートラルの講義を受講してもらう予定である。青森山田高校に限らず、他校とも同様の連携ができる可能性があると考えている。公立校はカリキュラムの都合上連携が難しい部分はあるつつ、引き続き提案をしていきたい。その際、実際に足を運んで説明することで、相手の実施における信ぴょう性が高まる傾向があるため、地道な活動を継続していく。

(5) 高大連携 CN 教育の課題とその解決策

高大連携科目として、系列の工大一高、工大二高生を対象に「カーボンニュートラル入門」を開講している。本学学生と一緒に受講するものであり、高校生が大学の学びを先取りし、進路選択に役立ててもらうことが目的の一つである。今年度で3年目を迎え、実施して見えた課題や高校からの要望を改善する形で進めている。今後、開講曜日や長期休暇日程の違いなどの課題に対し、学内や高校と協議しながら取り組んでいく。高校、大学、地域と信頼関係を築き、それぞれにメリットがあるような取り組みを続けていきたい。

(6) 質疑、意見交換

・八戸工業大学 学長 船崎健一

八戸市の環境学習会について、中学校へのアプローチとして総合的な探究の時間を活用できないか。また、八戸市外で同様の取り組みを行っている地域がないかなど、ぜひ情報収集していただきたい。中学生がカーボンニュートラルを含めた理系的な学びに興味を持つことは、本学にもプラスになるであろうという期待感がある。

・八戸市 市民環境部 環境政策課 盛田芽生氏

中学校のカリキュラムは学習指導要領をこなすことにより余白が少ないのが現状と聞く。総合的な探究の時間は学校ごとにテーマを設定しているため、そこに上手く入り込めればと思う。中学生にとってどこの時間を充てるのが適切か等、深掘りして現場と意見交換しながら進めたい。

・青森県 経済産業部 地域企業支援課 岩本大助氏

講演で示された青森県の温室効果ガスの削減目標について、発電段階の二酸化炭素の排出は計上していないことへの補足。消費段階の電力量×炭素の排出係数で計上した数字である。発電段階での排出係数を下げること、消費電力を減らさなくても原子力や再生可能エネルギーを増やすことで電源構成が変わり、二酸化炭素の量が減るのは重要と認識している。

・八戸工業大学 教授 折田久幸

カーボンニュートラルにおいて、未来の姿やあるべき姿を描くことは、一定程度世の中に普及されてきたと感じる。一方、技術と政策に乖離が生じることもある。技術面で不可能なことも存在し、多面的に取り組んでいくことが重要である。

4. その他

(1) 次回協議会開催について

次回は令和8年3月頃の開催を検討している。今後学内で検討し、確定次第早急に案内することとした。

5. 閉会